

Topic 1 | デジタル技術を通じた事業推進

三井倉庫グループは、物流という社会インフラを担う企業群として、サプライチェーンにおける「情報のデジタル化・見える化」を通じて社会価値を創出すべく、様々なデジタル技術を活用し、社会課題の解決に貢献してまいります。



その1 「DX注目企業2025」に選出

三井倉庫ホールディングスは、経済産業省が東京証券取引所、独立行政法人情報処理推進機構と共同で選定する「デジタルトランスフォーメーション銘柄(DX銘柄)」において、「DX注目企業2025」に選出されました。



三井倉庫グループは、2021年に「三井倉庫グループDX戦略」を策定して以来、SCMにおける情報のデジタル化や見える化を通じて社会価値を創出することを目指し、三井倉庫グループ内にとどまらず、異業種も含めた外部企業との共創にも積極的に取り組んでいます。この度の選出は、こうした取り組みの社会的意義や革新性、将来性が評価されたものと捉えています。三井倉庫グループはこれからもDXを推進し、デジタル物流企業として当社グループのビジョンである「いつもも、いざも、これからも。共創する物流ソリューションパートナー」を実現することを通じて、お客様の事業の発展に貢献してまいります。

「DX注目企業2025」とは

東京証券取引所に上場している企業が調査対象となり、企業価値の向上につながるDXを推進するための仕組みを社内に構築し、優れたデジタル活用の実績が表れている企業が「DX銘柄2025」として選出されます。DX銘柄の調査対象企業のうち、企業価値貢献部分において注目すべき取り組みを行っている企業が、「DX銘柄2025」に準ずるものとして「DX注目企業2025」として選出されます。

その2 新組織「AI推進室」を設立

三井倉庫ホールディングスは、三井倉庫グループにおけるAI技術の活用によるオペレーションの抜本的効率化と新たな顧客価値の創造を加速させるため、2025年10月1日付で「AI推進室」を新設しました。

昨今、物流業界において労働力不足が深刻化する一方、サプライチェーンは複雑化・高度化しており、お客様のニーズも多様化しています。このような事業環境の変化に対応するためには、デジタル技術、特にAIの活用が不可欠であると考えております。三井倉庫グループは「中期経営計画2022」の成長戦略の1つである「深化を支える経営基盤の構築」のもと、DXに取り組んでまいりました。これまでAI OCRや生成AIの導入、IoTやロボティクス等の技術活用による業務効率化を進めてまいりましたが、今般、この取り組みをさらに加速させるため、AI活用に特化した専門組織を新設しました。

AI推進室の役割

1. 既存事業の抜本的な効率化
2. 新たな顧客価値の創造
3. グループ横断的なAIリテラシーの向上

三井倉庫グループは「社会を止めない。進化をつなぐ。」というパーパスのもと、AIの全社的な事業実装を牽引するAI推進室により事業の変革を加速させることで、新たな価値提供を通じた社会課題の解決に貢献してまいります。

Topic 2 | 拠点整備の推進

三井倉庫グループは拠点機能の強化、各国の文化的背景や社会課題に適応した認証の取得などにより、社会課題の解決に導く物流サービスを提供しております。

その1 サプライチェーンの最適化を推進する拠点整備

三井倉庫グループは、目まぐるしく変化する社会において、お客様のサプライチェーンの最適化に資する物流サービスを提供すべく、国内外で拠点整備を実施しています。



三井倉庫エクスプレスは、車両認証試験の厳格化に伴う物量増加に対応するため、愛知県大府市に物流拠点を新たに開設しました。



MS Supply Chain Solutions (Malaysia) Sdn.Bhd.は、マレーシアに部品関連の取扱拡大を見込んで新倉庫を開設しました。

これからも三井倉庫グループはグローバルに展開する倉庫拠点とフルスペックの物流機能を活かした物流網を構築し、持続可能で強靱な物流インフラを提供してまいります。

その2 三井倉庫がインドネシアでハラール認証、米国でSQF認証を取得

インドネシア現地法人のハラール認証

PT. MITSUI-SOKO INDONESIAが輸送のハラール認証を取得しました。取得したのは、首都ジャカルタ近郊の2拠点および東ジャワ州の州都であるスラバヤの2拠点の計4拠点となります。インドネシアでは、ハラール表示の義務化の進行に伴い、市場で流通する認証製品が増加すると見込まれています。このたび、当社が保有する車両の計30台すべてに関して、基準に準拠した設備を導入し、各拠点には専門の教育を受けた職員を配置しました。これにより、倉庫保管から輸配送まで、ハラール認証に則した物流サービスの提供が可能となりました。

米国現地法人のSQF認証

Mitsui-Soko (U.S.A.) Inc.のロサンゼルスとシアトルの物流施設がSQF (Safe Quality Food) 認証を取得しました。SQF認証は、製造、加工、保管、配送など各段階で食品の安全性と品質を保証するもので、今回、両拠点は保管および配送の段階において認証を取得しました。

■ Mitsui-Soko (U.S.A.) Inc. / Los Angeles



住所：1651 E. Glenn Curtiss Street, Carson, CA 90746, U.S.A.

面積：14,590㎡

■ Mitsui-Soko (U.S.A.) Inc. / Seattle



住所：5403 196th Street E, Puyallup, WA 98375, U.S.A.

面積：常温 12,000㎡
冷凍(-25°C) 4,600㎡ / 冷蔵(+4.4°C) 600㎡

Topic 3 | 持続可能な物流インフラの構築に向けた共創の取り組み

三井倉庫グループは、物流という社会インフラを担う企業群として、拠点機能と体制を整備し、効率のかつ安定的な供給を実現するサプライチェーンの最適化を推進します。

autonomous driving

その1

自動運転トラックによる幹線輸送サービスを目指す T2に追加出資を実施

三井倉庫ロジスティクス(以下、MSL)は、株式会社T2(以下、T2)に対し、追加出資を実施しました。

MSLは、2023年に資本参画をして以来、サービス事業化に向けた高速道路での共同実証実験やオペレーション構築の支援等、協業による強固なパートナーシップを築いてまいりました。

MSLは、T2のビジネスモデルが今後さらに具体化・実現に向かう中で、自動運転トラックの輸送区間へ貨物をつなぐための切替拠点や中継拠点の運営と、自動運転トラックをより有効化するための省人化・自動化による効率的なオペレーションの構築が不可欠であると捉えております。MSLが培ってきた物流ノウハウやロボティクス・デジタル技術を利用したソリューションが活かせることに加え、共創パートナーとの連携を通じた物流ソリューションの提供により、T2との相乗効果を一層高められると判断し、今回の追加出資を実施いたしました。



MSLは今後も、T2のより効率的かつ持続可能なオペレーションの確立を目指して、トラックの発着組み合わせの最適化や、混載輸送・中継輸送といった多様な輸送手法の検討と導入を推進してまいります。

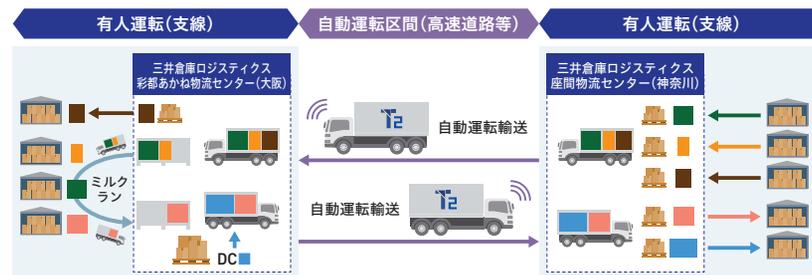
その2

レベル4自動運転を見据えた、共同実証を開始

MSLおよびT2は、物流拠点に集まる複数の荷主の貨物を在庫として保管せず、拠点内でそのまま仕分けて出荷するMSLの「クロスドック」の仕組みと、T2の「自動運転トラック」を組み合わせた混載輸送の共同実証を開始しました。これまでに、レベル2自動運転トラックによる幹線輸送の商用運行を利用したオペレーションを開始しており、本実証はレベル4自動運転を見据えた実証となります。

本実証では、自動運転トラックの稼働率および積載率を最大化させるため、複数荷主の貨物を混載輸送する仕組みの有効性を検証します。具体的には、MSLの神奈川・大阪の拠点それぞれに集めた荷主5社の貨物を仕分けし、T2のレベル2自動運転トラックに混載して両拠点間を幹線輸送します。

拠点内にクロスドック機能を設けることで、自動運転トラック到着後、すぐに次の貨物を積み込み出発できる体制を構築し、稼働率および積載率を向上できるか検証します。



これらの実証実験を行うことで、レベル4自動運転トラックによる幹線輸送の実現に向け、課題の抽出と改善を進めてまいります。

Topic 4 | サステナビリティに関する取り組みへの評価

三井倉庫グループは、サステナビリティ経営を推進し、体制を強化しながら、様々な施策に取り組むとともに開示を拡充しています。



その1 「MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」の構成銘柄に選定

三井倉庫ホールディングスは、このたび年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)がESG投資を目的として採用した指数である「MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数」および「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」の構成銘柄に選定されました。「MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数」には2年連続、「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」には今回初めて選定されました。

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数(WIN)

MSCIのロゴ、商標、サービスマークまたは指数名称の使用は、MSCIまたはその関連会社による当社への後援、保証、販促には該当しません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI指数の名称およびロゴはMSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

なお、現在三井倉庫ホールディングスは、世界最大規模の年金運用機関であるGPIFが採用する国内株式を対象とする6つのESG指数すべてに選定されています。

- ・ MSCI日本株ESGセレクト・リーダーズ指数
- ・ MSCI日本株女性活躍指数(WIN)
- ・ FTSE Blossom Japan Index
- ・ FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- ・ S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数
- ・ Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index(GenDi J)

三井倉庫グループは「社会を止めない。進化をつなぐ。」というパーパスのもと、これまでもサステナビリティへの取り組みを推進し、ESGに関する様々な施策や情報開示を実施してまいりました。今後も、物流という社会インフラを担う企業集団として新たな価値を創出し、事業活動を通じて社会課題の解決に取り組むことで、持続可能な社会の実現と企業価値の向上に努めてまいります。

その2 「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に

三井倉庫ホールディングスは、このたびSOMPOアセットマネジメント株式会社が設定する「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に初めて選定されました。



SOMPOサステナビリティ・インデックスについて

SOMPOリスクマネジメント株式会社が実施する「環境経営調査」および「ESG経営調査」の結果を基にSOMPOアセットマネジメント株式会社が設定する独自のアクティブ・インデックスです。ESGへの取り組みに優れた約300銘柄で構成され、同社が行う「サステナブル運用」に活用されています。